

第1回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時:令和3年6月22日(火)18時00分～19時15分

場 所:宗像市役所 103 会議室

出席者:船越会長、高杉副会長、納富委員、牛島委員、井手委員、大和委員、

原田委員、井中委員、安枝委員、荻野委員、棚橋委員

事務局:高宮教育長、(子どもグローバル人材育成部)徳永部長、(子ども育成課)中野課長、

(教育政策課)名切指導主事、(子ども支援課)姫野係長、(子ども家庭課)山本係長、

(子ども育成課)賀来参事、田中係長、瀧口係長、三吉

【会議内容】

1 あいさつ

(教育長、会長よりあいさつ)

2 委員、事務局の紹介

(審議会委員の自己紹介及び事務局職員の紹介)

3 議事録について

作成方法が①全文筆記 ②発言者の発言ごとの要点筆記 ③会議内容の要点筆記のうち、③の要点筆記で行う旨、確認された。

4 報告

・令和2年度幼児教育事業報告について【資料1】

・令和3年度幼児教育事業計画について【資料2】

5 協議

・令和4年度幼児教育事業について

【委員からの意見】

〈6つの基本施策について〉

基本施策 1

・小学校では2020年から新学習指導要領が始まり、幼児教育の場でも食育・自然活動を、取り組んでいるところもある。

・幼児教育が進んでいる国では、1歳くらいから就学前には遊びを通して色々なことを学び、小学校で受け継ぎながら主体性のある生きる力を育む教育がされている。

・コロナ禍の中、型にはめず子どもの気持ちに寄り添うと、保護者も子どもも笑顔になり、自己肯定感が高まり、他者を思いやる寛容な心が生まれ生きる力になる。

・宗像市の目指す幼児像「自分・人・環境とのかかわりを大切にする」ことが、SDGs の理念にも通じる。

・幼児教育事業については、ジェンダー平等を子どもの時から「男らしさ・女らしさ」また、「男の役割・女の役割」を取り払い、一人一人の人権を尊重した教育になるとよい。

・宗像市は2020年に、SDGs 未来都市に内閣府から選定されている。資源を大切に、環境を守り、水・電気・物の大切さを、幼少期からわかりやすく子どもたちに教育していけるよう内容を検討し、充

実あるものにしてほしい。

基本施策 2

- ・入学後、小学校の生活になかなか慣れず様々な課題がある。例えば朝泣いて母と登校、長い時間席に座れない、学習面などがある。やはり保幼認小連携が非常に重要である。
- ・子ども達が少しでも早く学校に適応して、楽しい学校になるためにも、スタートカリキュラムを整備し、幼稚園や保育園に情報共有し、実践・交流・見直しをしていくことが必要である。
- ・入学後4月は楽しく通っていたが、6月になると行き渋りが見られた。自分の気持ちを伝えられずに我慢してしまう。先生からも、暑い日のマスクの着用や衣服の調整など声をかけてもらえるとよい。
- ・昨年度からのコロナの影響で保育現場も保育の在り方を見直し、行事を縮小したり、パーティーの使い方など、今までの保育の常識が覆された。
- ・幼児教育・保育に大切なことは、子どもに必要な運動・豊かな体験であり、その必要性を共通理解していくことが重要である。
- ・本園の研修では保幼小の連携・接続、また今後教育システムの違いもしっかりと研修できる機会になっている。今後もコロナ禍での保育のあり方、その実践の場を見ながらの意見交換を、行政と一体となり幼児教育の振興に努めていき、研修を有意義なものにしてもらいたい。
- ・スムーズな小学校入学に向けてのパンフレットのあいさつの中の「ありがとう」「ごめんさい」は気持ちを伝えるところに入れてほしい。「No」といえる人になりましょうということをしっかり教えていくためにも、「いやな時はいや」と気持ちをに入れてほしい。
- ・学びのめやすのパンフレットの、共通の目標Ⅰの「正直・素直」は「素直な心」に変えた方がよい。「相手・担任・親に正直に話す」は、子どもが自分の気持ちを話すということを強調してほしい。

基本施策 3

- ・宗像市の課題は、幼児教育と特別支援教育の連携の充実である。また、相談体制の拡充や園の受入体制の充実も必要である。
- ・療育に通いながら園に登園している園児の適切な対応、充実した保育を行うためには専門的な知識や理論などを身に付けていくことが必要である。何よりも支援方法や、支援体制のネットワークづくりが大切。
- ・巡回相談や4歳児健診では専門的な立場から年齢ごとの支援の対応や保護者とのかかわりについて相談する機会がある。
- ・加配教員が増えると、園内研修が必要になり、幼児教育アドバイザーの関わりや研修体制を構築することが必要。コロナ禍では、できるだけ共有しガイドラインを目安に取り組むのも必要。
- ・研修会の動画配信を行うことで、人材育成、資質及び専門性の向上になる。

基本施策 4

- ・インクルーシブ教育、特別支援教育に関する意識が広がり、様々なプログラムに反映されている。
- ・保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校、子どもの関係する機関が子どもも家族も安心できる場所であるということを事業計画に入れたい。親や先生とのコミュニケーションの時間をいかに増

やすか。そのためには、先生の業務を見直し、先生と子ども、先生と保護者の人間関係が今以上に温かくなる施策になるとよい。

基本施策 5

- ・のぞみ園の利用者が増加し、年々年長の割合が増えてきている。そこで大切になるのが、小学校・園との連携・接続の支援である。
- ・昨年の取り組みの1つは、就学サポートノートの活用を充実させたことである。もう1つは、年度が変わる時期に市内の小学校(1小学校を除く)に訪問し、申し送りを行い連携を図ったことである。
- ・今年度はそれをさらに充実させ、巡回相談後も各スタッフから幼稚園・保育園に連絡をし、コロナ禍の連携の取り方も努力している。
- ・ふくおか就学サポートノートの活用が広がっている。
- ・テクノロジーを利用して、障がいを持っている保護者の力を高め、ふくおか就学サポートノートを使いやすくする。我が子をぜひサポートしてほしいと、自分から援助を求める力がつくようなエンパワーする仕組みが大切。
- ・学校のタブレットで、障がいについてや気になる子への対応が載った絵本の紹介などがあるとよい。

基本施策 6

- ・子育て支援センターの相談件数が増え、中には深刻な相談もある。他の子と触れ合える機会が減り、子どもの発育を心配している人が増加した。
- ・コロナの影響で父親の在宅ワークが増え、静かにさせるために乳幼児のメディアとの接触も増加した。今後、タブレットや携帯の使い方を見直す必要がある。また、携帯を持たせる年齢についての相談も非常に増加した。幼児期のデジタルに対しての正しい情報と保護者の理解が大切。使用する目的やルールを子どもにも理解させ定着していくことが必要である。
- ・子どもたちを安全に迎え入れるために、乳幼児の感染対策について、看護大の先生にガイドラインに沿って消毒の仕方など丁寧にアドバイスをもらった。
- ・保護者の不安を解消するためにガイドラインの見直しをし、職員が安心できる職場作りや保護者へ情報を伝えていく仕組みをつくってほしい。
- ・宗像市のLINEができたが、なかなか浸透していないので、他市の子育て支援のアプリを参考に、もっと力を入れてもらいたい。
- ・子育ての支援技術は、「あやす」「おんぶする」という伝承の役割も担っている。そこを整理して、発信する仕組みを市として応援してほしい。
- ・SDGsの17項目の中の、5項目の「ジェンダー」平等が大変遅れている。SNSやLINEで相談できる窓口ができればよい。
- ・携帯やインターネットの利用する上でのルールなどの言葉があるとよい。
- ・SDGsやメディアリテラシーは今後家庭向けのパンフレットを検討するときに大事になる。

事務局からの説明

・発達支援や配慮が必要な子どもが増加した理由として2つある。1つは子どもや家庭への市の支援体制が整ったこと。もう1つは、家庭や社会の変化により子どもの育ちも変わったことである。のぞみ園の療育のここ10年間の増加については、保護者の気づきが大きい。また、保育所・幼稚園・認定こども園の先生方の気づきも早くなり、先生から保護者へ適切に伝えられ、発達支援室につながり、のぞみ園の療育につながっている。発達支援室は、巡回相談で年に2回各保育所・幼稚園・認定こども園に訪問している。その件数は平成28年度は433件であったが、令和2年度には605件だった。

・令和2年度の年中健診の実績は、対象人数が937人、受診者数が900人。フォローが必要なお子さんは全体の3割で何らかの課題を抱えている。年中健診時に、就学を見据えお母さんに話をしていくことで、就学前にできることをやりたいと思う保護者も増えてきたことが早期療育ができた要因にもなっている。

6 その他

・第2回の幼児教育審議会の日程について